

第4回インクルーシブCafe

患者虐待防止のために精神科医療におけるモヤモヤについて話しましょう

○夫 博美¹⁾、山内 彩香²⁾、片岡 三佳³⁾、佐藤 寧子^{4,5)}、福嶋 美貴⁶⁾、福田 久仁子⁷⁾、
安保 寛明⁸⁾

1) 藍野大学短期大学部、2) 大阪医科薬科大学 看護学部 看護学科、3) 三重大学大学院 医学系研究科 看護学専攻、4) 淀川キリスト教病院、5) 大阪大学大学院 医学系研究科、6) 中部大学 生命健康科学部 保健看護学科、7) 福山平成大学 看護学部 看護学科、8) 山形県立保健医療大学 保健医療学部 看護学科

【背景・目的】

2024年に精神保健福祉法の改正があり、精神科医療制度において初めて虐待防止が明記されました。具体的内容は通報の義務化、虐待防止研修の実施および普及啓発、相談に係わる体制の整備などです。

私たちは2022年度に重大な患者虐待事件である神出病院事件をきっかけとして、本学会における「権利擁護&地域ケアプロジェクト」から発足したチームです。プロジェクトの一環として、2023年の学術集会以降3年間継続してワークショップを開催し、他学会においてもワークショップを重ねてきました。その中で神出病院事件への思いや臨床で生じたジレンマ、看護学生が精神科看護に感じた疑問、当事者や家族の率直な思いなど、この場ならではの対話がありました。私たちは回を重ねるごとに精神科病院における虐待防止について話す「場」を設けることの重要性に気づかされています。

【内容】

今回は、臨床で起きるモヤモヤを取り上げます。日常の実践の中で自分や他の医療者の患者への態度や言動がこれでよかったのか考えたときにモヤモヤすることがあります。例えば「同僚が患者さんに強い口調で話しかけていたが、黙認してしまった」
1) 「何度も同じ訴えをする患者さんに対して、『それはもう聞きました』と答えた」1) などです。倫理的な問題を感じて話し合おうと思っても看護職同士や他職種との関係性への支障を懸念して声に出しにくいことが考えられます。当事者も含めて、一体だれに相談すればよいかと戸惑ったり、抱え込んだりしてモヤモヤが生じると考えられます。インクルーシブCafeでモヤモヤを話してみませんか。

話題提供として、近年の精神科病院虐待事件を振り

返ると共に日下部記念病院（山梨県）の看護部の虐待防止活動を紹介します。この病院は、神出病院の患者虐待事件を自分事と考えて行動を始めました。また、職員行動指針として「いかなる理由があっても虐待を許さないというポリシーをもち傍観者をつくらぬ組織をめざす」を作成・周知して、多角的な虐待防止活動をしています。今回は活動のひとつとして、倫理委員会の活用並びに倫理リーダー育成とモヤモヤMEMO¹⁾の活用方法を紹介します。モヤモヤMEMOは倫理的なジレンマや感情を整理するためのツールであり、日常のケアで繰り返されている何気ないことに問題意識を持つことを虐待防止活動に活用しています。

【方法】

本ワークショップは、参加者の対話を中心にするためにワールドカフェ形式で行います。虐待というセンシティブな会話に心理的安全性を保つために私たちもホストとしてテーブルに同席させていただきます。看護師だけではなく、当事者、学生、等の幅広い層の方の参加を願っています。インクルーシブCafeは立場が異なっても同じ目の高さで交流できる時間です。皆さまの参加をお待ちしています。

【倫理的配慮】

話題提供発表に関しては、社会医療法人加納岩日下部記念病院の病院長の承認を受けました。病院や看護部の紹介をしますが、患者情報などの個人情報には含みません。

【COI開示】

開示すべきCOI（利益相反）はありません。

【文献】

1) 日本精神科看護協会（2021）ブックレット「精神科看護職の倫理綱領とモヤモヤMEMO」